がんばろう 南三陸町

復興第83号

発 行 所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84 TEL(46) 3069 FAX(46)3068 企画・編集

志津川広報センター

南三陸町の中世を学ぶ

「南三陸の山城と石塔」を刊行された、中世考古学者の田中則和氏(前宮城県考古学会会長)を迎え、全8回にわたる連続講座が開催されている。

講師 田中則和先生を迎え

第1回(2/15)「南三陸の山城と石塔」一研究者による最新の見解と題され開催された。第3回(4/19)女川・雄勝編の会場はマチドマに於いて、約30名が視聴した。第5回(6/21)志津川編は、生涯学習センターを会場に約60名を超える町民の皆様が、新井田館の発掘された跡地に整備された中央団地の場所で、戦国に生れた人々の歴史ロマンに想いを馳せた。

志津川地区の板碑と朝日館は平安時代のかまどや土器が発掘され、たて穴住居も見つかり、近くには「おだまや遺跡」の石塔がある。土壌は砂っぽく 600 年に1回の津波があった跡が残り、現在大津波が「千年に一度」と言われる事につながる。

細浦館は、海の方を向いて建っていた。その 場所は細浦「徳性寺」であり、門の脇には板碑 があり、その板碑には「お釈迦様が修行した」 と書いてあると話す。

大雄寺の板碑は2枚あり、「千人仏の板碑」が近くの信倉地区で発見されている。1363年2月江戸時代に仙台藩が志津川村で、金堀りの人々

が事故で数百人亡くなり、千人塚として建立した。

新井田館遺跡は、東日本大震災の高台移転の 場所として、遺跡の調査が 2015 年に始まり、 7月には山城跡が削られる直前に陶器、石鉢、 古銭、柱穴が発掘され、調査終了後の 11 月 23 日に町内外から 318 名の方々が跡地を訪れ熱心 に説明を聴いた。

調査の結果、平場6カ所、堀6条、土塁8条が見つかり、山城には8m幅で、深さ3mの堀があり敵から城を守った。15世紀前半ごろに築城され、17世紀には既に使われていなかった。

戦国期に朝日館の城主は本吉四郎高衡の家来 志津見五郎の城と伝わっている。東北地方の要 と思われる。新井田館の大きさを比べても、朝 日館は約20倍も大きい。

主催は南三陸研究会 / みなと工舎で、予定する全8回に参加された方には「修了証」を贈呈する。今後第7回目は8月16日の「歌津編」、第8回目は9月20日で「南三陸の歴史と文化遺産」について、生涯学習センター(中央団地向かい)において、田中先生の貴重な講話を予定している。

南三陸町の高齢化率 南三陸町は 35.6%県内 35 市町 12 番目の高さ

気仙沼市は 37.4% 7番目の高さ 宮城みちのく巡礼 33 カ所



安女宝山徳性寺住職辻 文生さんから、大震災か らの寺の復興、現在の話 しを聴いた。

4番心所に細補徳性寺

多くの先祖から引き継 いだ品々の流出の中で、偶然にも貴重な徳性寺 話す

徳性寺の本堂・庫裡も高台にあったが、16m にも達する細浦地区への津波の襲来で、本堂は 崩壊し庫裡は2階まで浸水したが、修復し檀家

の仏事に当たっている。 山門は倒壊を免れ、4 基の板碑と教育委員会の 「細浦板碑群」の説明看 板は残っている。

震災後は、墓地の入口

に観音像を建立し、動物の慰霊碑も整備した。 また、被災地の寺を巡る「巡礼」で、亡くなられた皆さんの供養も計画している。本堂は高台の墓地脇の仮本堂で、葬儀・回忌法要をおこない檀家の供養にあたっている。今後は本堂の再建を目指し、取り組んでいると語る。

細浦板碑群

板碑は中世の供養碑です。志津川ではこれまで約 280 基の板碑が発見されており、鎌倉時代の弘安六年(1283)から室町時代の宝徳三年(1451)までの年号が読み取れますが、南朝の年号や戦国時代に入ってからの板碑は確認されていません。

細浦の徳性寺には 10 基の板碑がみられ、年号の刻まれているものが8基(1303~1383)、うち4基は鎌倉時代のものです。鎌倉時代の年号を刻んだ板碑は志津川では6基しか発見されておらず、うち4基が細浦にあることを考えると、ここがかなり古くから開けた集落であったことがわかります。

志津川の中世を語る文献史料はほとんど残されていないため、板碑の存在は当時の歴史を知るうえで貴重な手懸かりとなります。今後とも大切に残していきましょう。

平成 15 年 3 月 志津川町教育委員会

未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成31年(2019年) ~ 地元報道より ~

3月の出来事

南三陸町 🗆

- ◆南三陸は 27 日、2019 年度一般会計当初予算 案を 331 億4千万円で前年度と比べて 0.4%増 と公表した。予算規模は前年並み。
- ◆第 55 回全国児童才能開発コンテストの作文部門で南三陸町立志津川小学校5年の山口和花さんが、全国連合小学校長会会長賞の上位賞に選ばれた。作文部門への応募は1万5129 点で山口さんは「みんなの心に」と題した作品を応募した。作文部門は、志津川小4年の菅原萌香さんが財団奨励賞を受賞した。
- ◆南三陸町志津川新井田地区内に町生涯学習センターが、完成した。町内の公共施設のうち、建物としては最後の災害復旧事業で、開館は4月25日を予定している。
- ◆「南三陸モアイ化計画」に取り組んでいる志津 川高校の生徒が 28 日、グッズ販売で得た 50 万 円を町に寄付した。町は4月に開館する生涯学 習センターの図書購入に充てる。
- ◆4日南三陸町は、東京電力福島第一原発事故で汚染され町内に保管されている牧草を、保管農家の所有地にすき込む方法で処理を検討していることを、明らかにした。町有地での処理は適地が見つからず断念する方針。

◆南三陸町入谷のひころの里で、まゆ玉を使った作品を展示する「シルクフラワーフェスタ」が2日~10 日まで行われた。入谷ふるさと振興会が主催したもので、期間中はまゆ細工や機織り体験なども行われた。

の歴史を伝える町の文化財的な仏具が残ったと

◆南三陸さんさん商店街で、オープンから丸2 年を祝うイベントが3日開かれた。

マグロの解体ショーやビンゴ大会、カキ汁の無料提供などがあり町内外から多くの人が訪れた。

- ◆南三陸町議会3月定例会が、5日開会した。 初日は3氏が一般質問を行なった。
- ◆埼玉県さいたま市のコミュニティーサークルが2・3日、南三陸町の住民を元気づけようと、くつ下を使った手作りぬいぐるみを復興住宅の住民らに届けた。「くつしたモンキープロジェクト」として南三陸町を毎年訪れ、住民らにぬいぐるみをプレゼントしている。
- ◆南三陸町教育委員会の佐藤達朗教育長(70)が、3月末で退任することが分かった。後任に現在町立志津川小学校校長を務めている、齊藤明氏(59)を充てる方針を固め、町議会3月定例会に人事案件を上程する。
- ◆南三陸町議会3月定例会は8日、町が計画している家庭ごみの有料化の条例改正案を、賛成 多数で可決した。
- ◆南三陸町の震災復興祈念公園は 2016 年度末 に着工し、現在盛土工事が進められており、一 部は今年 12 月の開園を目指す。
- ◆11 日南三陸町歌津田の浦地区で「キャンドルナイト」2019」が行なわれた。キャンドルには手書きのメッセージが添えられ、地震が発生した午後2時46分には参加者が灯りをともし、海に向かって黙とうをささげた。

- ◆「春つげわかめまつり」が南三陸町の南三陸ハマーレ歌津で10日開かれた。生ワカメ・生メカブの詰め放題も行われ、詰め放題のワカメは歌津産ワカメ1千トンが用意された。
- ◆南三陸町では東日本大震災から8年を迎えた11日、大震災が発生した午後2時46分に合わせて犠牲者に黙祷をささげ、冥福を祈った。追悼式は、ベイサイドアリーナで行われ、遺族ら約500人が参列した。
- ◆神戸市長田区にある大正筋商店街の店主やボランティアら 12 人が 10 日、南三陸さんさん商店街で長田名物の「そばめし」を振る舞った。南三陸特産のミズダコを加えた、そばめし約200人分を無料で配り喜ばれた。
- ◆南三陸町歌津大沼地内で 10 日午後 1 時 10 分ごろ、平屋建ての物置 5 棟が全焼する 火事があった。道路を挟んだ向かいの山林に も飛び火したが、大きな被害はなかった。
- ◆東日本大震災を引き起こした東北地方太平 洋沖地震によって 68 センチ沈下した南三陸 町志津川では、8年間で47センチが戻った。 東南東方向に4.5メートルずれた水平変動は、 8年間で5.8メートルずれたことになる。
- ◆南三陸町高齢者芸能発表会が 13 日、ベイサイドアリーナで開かれた。踊りなど日頃の練習の成果を披露した。
- ◆2019 年度一般会計当初予算に盛り込んだ町税の額が、過去最高になった。住宅再建や事業所再建に伴い年々上昇し、19 年度も復興の影響が継続し、町税の増加を見込んでいる。
- ◆南三陸町が志津川市街地で進めている土地区 画整理事業の進捗率が、90%を超えた。4割の 宅地の利活用の見通しが立っていない。



(前ページよりの続き)

- ◆農業の活性化に向けて活動する女性やグループを顕彰する、県農業・農村活性化女性グループ等表彰の地域社会参画部門で、南三陸町入谷の「ビーンズくらぶ」が最優秀賞を受賞。豆の栽培が活動のスタートだったことから、グループ名に「ビーンズ(豆)」が入れられている。現在は枝豆と大豆栽培、豆腐の製造、南三陸の素材を使った弁当の販売も手掛けている。
- ◆南三陸町議会3月定例会は2019年度当初予算審査特別委員会を続行し、教育費については、スクールバスに関して今後の見通しがただされた。町は徒歩通学の再開を含め、通学形態の在り方を学校、PTA、警察などと話し合っていく考えを示した。
- ◆ラムサール条約に登録された南三陸町志津川湾で、藻場の全体像を把握するための調査が行なわれる。藻場や磯焼けの状況の変化を記録していく計画で、今回はその基礎データを集める調査となる。
- ◆南三陸町に全国から派遣されている応援職員

35 人が任務を終えて、地元自治体などに戻る。

- ◆第 24 回全国青年・女性漁業者交流大会が 東京都内で開かれ、県漁協志津川支所戸倉出 張所カキ部会が農林水産大臣賞を受賞。注目 されたのは、漁場を維持管理するためのポイント制を導入。いかだ配分における既得権を なくし、後継者がいる世帯にポイントを多く 与えて、いかだの配分を増やすなど、持続的 な安定収入につなげられるよう、地域が工夫 しながら一体となって取り組んでいる点が評 価されたもの。
- ◆南三陸町に 24 日、東日本大震災に東北を 支援している台湾との絆を象徴するオブジェ 「希望の芽」が、日本政府観光局から贈られた。 南三陸病院内に展示されていて、オブジェの 高さは 120 センチ、幅 90 センチ、奥行き 60 センチ。
- ◆28 日山形県庄内町の高校生が南三陸町を訪れ、志津川高校の生徒と交流した。訪れたのは 庄内総合高校生徒会執行部とJRC部員 20 人で、花苗の植栽や山形名物の芋煮作りを通して

親睦を深めた。

- ◆東日本大震災後の2011年10月に南三陸町教育委員会の教育長に就任した、佐藤達朗教育長が今月末で退任する。29日退職辞令が交付された。町の教育環境に全力を尽くし、7年半にわたって町の教育をけん引してきた。
- ◆全農エネルギーが経営する県内初のガソリンスタンド「ジャスポート南三陸」が完成。 28 日に開所式が行われ、29 日から本格営業を始めた。志津川十日町地内の国道 45 号沿いに建設され、セルフ形式でドライブスルー洗車機などもある。
- ◆「地域おこし協力隊」として活動していた1期 生に当たる2人が、今月末で任期を終える。4月 からは、新規就農者などとして町内に定住する。
- ◆4月1日から今シーズンの営業を始める南三陸町の神割崎キャンプ場は、ゴールデンウィークの予約がほぼ埋まるなど好調。1月10日以降、申し込みの動きが早く、利用客は県内が6割、うち半分は仙台市内だという。キャンプ場営業期間は11月30日まで。

(南三陸町の貴重な海と干潟 82号のつづき)

南三陸町の干潟生物研究者に



「南三陸海岸の『いま』を見つめよう」と題された「干潟のセミナー」が志津川高校を会場に、6月8日(土)午後5時から開催された。主催は南三陸町自然環境活用センターで、協力として志津川高等学校があたった。

講演1の講師として、金谷弦博士(国立環境研究所)が、「干潟すごいぞベントス(底生生物)すごいぞ」。講演2として講師、鈴木孝男博士(みちのくベントス研究所)は「津波で被災した志津川湾の干潟とそこに暮らすベントスの現状と課題」と題し、2人のベントス(底生生物)の研究者は、南三陸町の志津川湾の干潟は貴重な環境である事と、守って行く必要性を、集まった50名前後の皆さんに話しかけた。志津川高校の自然科学部の生徒たちも真剣に聴き入っていた。

志津川「松原干潟」は貴重



講演の中で、今回の 松原干潟の環境調査の 結果も発表された。

鈴木孝男博士の講演では、「松原干潟の導流 堤(川と海の水の交換)」 の工事を早くしてもらいたいと話す。伊里前 の干潟も生物が住む場

所の整備をと言い、県には少しずつ環境に配慮して整備をとも語る。多岐にわたりベントス(底生生物)の貴重なラムサール認定の志津川湾の干潟の事を教えてくれた。

調査では 2017~2018 年に 90 種類の生物が 見つかり、その中には絶滅危惧種がいた。そし て今回で 100 種にもなった。戸倉海岸は水が2 つに分れ、松原干潟より生物があまり住まない と話す。松原干潟は絶滅危惧種が13%も生息し、 多様性の高いレッドリスト種の生物が多い。

河川水の契水地に色々な生物が生き、パイプ 3本で海水が河川に入れるように、水生生物が 住めるように、と早急な導流堤工事をと言う。

防潮堤や、河川堤防の土壌改良材はアルカリで、河川水と海水の交わりがなくなる工事と語る。講師は、「順応性の環境を維持し、自然のままに環境を保全する事で、幼生が戻ってくる。」

と話す。

女川町は80cm も地盤沈下したが、今は少しずつ干潟が戻ってきている。松原は貴重な干潟で戸倉折立や伊里前とは違う。その場所を高校生が真剣に調査に取り組み、今後も継続していって欲しいと述べた。

「外来種のなげき」

金谷弦博士の言葉には「外来種のなげき」というワードが出てくる。多くのベントスの底生 生物には世界の海辺から流れ着き、この松原干 潟の調査でも発見されていると話す。

1日に2度の干満潮があり、太平洋は2mであり、秋田の干潮の潮位の巾が $30 \sim 60 \, \mathrm{cm}$ と言う。九州の有明海の干潮は大きく $5 \, \mathrm{m}$ にも及ぶ。東京湾は江戸前の佃煮で有名で、海辺のエビ・小魚・フジツボなどは、いろいろな物を食べ土を濾過する。

穴ジャコも松原干潟で発見され、土の下の泥を食べ上にあげる。体の中で有機物を食べ濾過して、海辺・海底をきれいにする。赤潮の発生 もベントスは餌として食べてくれる。



プランクトンとベントスの循環で、ヨシ・アマモ・木があり、生物の多様性が保たれている。サケの遡上はベントスが川と海のつながりの中にあり、コンクリートでの整備ではヨシ原がなくなる。東京湾も20%が埋め立てられた。

干潟の再生にはお金が掛かり、蒲生干潟はお 金に換算すると1億5千万円も必要だと話す。

最後に金谷先生が作った曲「外来種のなげき」 を、ギターで弾き披露してくれた。



南三陸町人口の推移

(令和元年6月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
元年5月	12,779	5,215	1,395	1,942	4,227
元年6月	12,771	5,200	1,397	1,944	4,230
元年5月からの 増 減 数	-8	-15	2	2	3
世帯数	4516	2041	472	656	1347

(2019年7月の新聞記事より)

志津川グランドゴルフ協会 南三陸町体育協会新規加盟へ

7月 17 日(水)生涯学習センターに於いて、 令和元年南三陸町体育協会表彰式並びに総会が 開催された。今回表彰となった方々、加盟団体、 新教育長を含む事務局など 30 名余りが集まっ た。

協会表彰式では、体育功労彰に 野球協会の佐藤博 行氏、井上誠氏、 卓球協会の山内広 氏が長年の協会の



活動への貢献と尽力に対し表彰された。体育勲功章の個人には、空手道連盟の伊勢まどかさんと陸上競技協会から三浦真衣佳さんと千葉星那君の3人が表彰され、団体では綱引連盟のチーム南三陸が表彰された。

総会にあたり高橋長泰会長が、「震災もおちつき、スポーツで発信ができるようになった」と 挨拶し、齊藤新教育長の祝いの言葉では、「若者 の育成と体育振興に努力された」「日々の努力の 結晶だと思います」「健康で長生きでありますよ うに、ご祈念します」と結んだ。

総会議案3号に、南三陸町志津川グランドゴルフ協会の新規加盟の申請があり承認された。また、議案4号では役員の一部改正が審議され、高橋長泰氏(弓道協会)の退任により、新会長に阿部和夫氏(野球協会)と副会長に山内義申氏(サッカー協会)が任命された。

三陸道で大型トラック事故 10 時間三滝 I C ~ 志津川 I C 通行止めとなった

6月29日午前6時35分ごろ、大型トレーラーの横転事故が発生した。場所は「三滝堂インター道の駅」から気仙沼方面への下り線で、登米市と南三陸町の中間にある志津川トンネル下り出口で、中央分離帯のガードレールをなぎ倒し上下線をふさぐ大事故だった。

車両からはガソリンも漏れ、八幡川の支流に 流出しオイルフェンスを張ったり、町職員が出 て吸着マットで回収した。



なり、出口もカーブでありストップライトが点滅し、常々混雑時には渋滞も発生している。

夏休みやお盆の帰省など、高速運転には十分な気配りと、時間の余裕を持った運転に努めてほしい。